



# TSと奇妙な冒険

TSリボルバー

## 第一章 サバイバー

【ウォークマンが世界的流行になった時代のエジプト カイロにて】

あと少し…あと少しだけあの男の願いがD I O様の心に届けば、私の快樂は無くなる。それでも私はあえてそれを邪魔しなかった。

私のスタンド『スリーズアンドナインズ』は、

『誰かに捨てられたと感じている男性を、女性に性転換させる』能力だから…。

「捨てる」ことが大事なのだ。

強く捨てられたと、そう感じてもらうことが重要なのだ。

私は黙って心優（ミュ）と呼ばれる貧弱なその男が、D I O様に捨てられる様を…、あのヌケサクでさえ捨てられないにも関わらずザマに捨てられるその様を…、クスクスと笑いながら闇に紛れて見つめていた。

心優が、必死にD I O様の足にすがりつき、泣き喚く。

「だから言っただろう、心優。

私はキミを…捨てる。

確かにキミの能力は素晴らしい。素晴らしいが私の組織では要らない。いや、近くにいってもらうことさえ困るのだ。

キミのスタンド『サバイバー』がそこにある限りな。

さあ、出て行ってくれ。

私はキミを…捨てる」

心優は優しすぎる人間だ。

それは私の辞書をひけば、自身を『悪』とさえ気づかずに、周囲全ての人間をまるで赤子を世話する母親のように奉仕させようとしているに過ぎない、と記載されている。

彼の『優しい』はやはり『悪』で、そういう意味ではD I O様が見つけ出した生まれつきのスタンド使いというのも納得だ。

醜悪で自分を悪とも思っていない、幼児的な『悪』。

心優がそうで在り続ける限り、彼はD I O様にすがりつこうとするだろう。

「それなら…、それなら僕は強さを証明しますっ！

ヴァニラアイス。

この男に僕は勝つッ！

それなら、それなら認めてくれますよね！？

D I O 様っ！」

「…」

D I O 様は沈黙の後、ヴァニラ・アイスに一言「…殺せ」とだけお命じになって二人の決闘を見守った。

勝てるはずの無い闘い。

暗黒空間に飲み込まれてゆく部屋。

まず壁が…。

本棚が…。

D I O 様が大切にしていた本が…。

D I O 様が愛用されていた椅子が…。

心優がダービー兄にイカサマされた机が…。

騙されていると知りながらD I O 様に笑って欲しくてピエロを演じたあの机が…。

次々と粉微塵になって消えてゆく。

そういう思い出の品にすぎる心優の特性をヴァニラ・アイスは十分に理解していた。

そして、D I O 様も…。

徐々に円が狭まってきて、最後の最後。

心優は下を向いた。

今、サバイバーを発動させたらD I O 様に迷惑がかかるからだろう。

ただ黙って下を向いていた。

暗黒空間に飲み込まれる最後の最後。

床にD I O 様のスタンドが彫ったであろう文字で

『このラクガキを見て、

後ろを振り向いた時

お前は死ぬ』

D I O 様は、忠誠心を試したのだろう。

『忠誠心があるなら、せめて最期は自ら死に向かってみせろ』と。

そして、意外なことに、心優は自らすすんで思い切り振り向いた。

そして心優の涙だけが飛び散り、床に染みとなる。

正直に言っただけ私は、『心優は飲み込まれてしまった。私のスタンドが発動する前に…』と  
思った。

しかし現実はそのようではなかった。

D I O 様に命じられて屋敷の外に出ると、そこには失禁したまま気絶した心優が転がっ

ていた。

おそらくはD I O様のスタンドパワーなのだろう。

あたかもそうあることが当然であるかのように、不自然な作為が自然と存在する恐怖。

これが私の感じたD I O様のスタンドに関する評価だ。

私とD I O様は最終的にお金だけの関係ではあるが、やはりあのお方を敵にしなくて本当に良かった。

私はそう思いながら、気絶したままの心優を自分の宿泊するホテルに運びこむ。

心優がD I O様に捨てられたと感じている以上、D I O様の屋敷で『調教』するのは『D I O様に危害が及ぶ』可能性がある。

彼のサバイバーはそういう能力だ。

エジプト9栄神のスタンド使いたちが揃っている時に発動されたら、戦力が半減してしまいかもしれない。

## 第二章 スリーズアンドナインズ

【ノストラダムスの大予言が外れた年、S市杜王町にて】

知ってる？

人間は失った何かを取り戻そうと別の何かを差し出そうとする性質があるけど、コレにはパターンが二種類存在する。

パターンA…聖なるもの。

最愛の子供を失った親は、いつだって神にこう祈る。

『神様、あの子を返してください。私の命はどうなっても良いから…』

子供を愛しているからこそ願う、自己犠牲と愛。

私は自己犠牲が美しいとは思わないが、愛は美しいと思う。

だからだろうか。

私のスタンドはこの聖なるものは利用しない。

パターンB…すがりつくもの。

頼りきっていたものに捨てられた人間は、(男女問わず)大切な何かを失ってでも何かにすがりつくこうとする。

依存症などがこれに該当するが、中でも厄介なのは『ある特定の、頼りきっていた誰かに捨てられた人間』だと私はそう思う。

私のスタンド『スリーズアンドナインズ』はこのすがりつくものを利用する。

もっとはつきり言えば、『捨てられたと強く感じている人間』にだけ能力を発揮する。

さあ、恩人でもあるDIO様に話した言葉と同じ言葉を他ならぬあなたにも告げよう。

「私のスタンドは、『捨てられたと強く感じている男』を『女』にするッ!!!」

そして、男はその精神年齢に応じた外観の女となる！

ここまでは一見なんの意味もない、ただの戦闘力が強いだけのスタンドに見えるでしょう？

でも私のスタンドはコレで終わりじゃアあないッ!!

女にされた人間はこの、男性のチ●ポを模したペニスバンド型のスタンド、『スリーズアンドナインズ』でマ●コを突かれて…。

男に戻るか、新たなスタンド能力を手に入れるか選ぶことができるッ!!!

新たなスタンド能力を『女』が選んだ場合、古いスタンド能力は消滅する!!

もうお分かりよね？

私が肉の芽を埋め込まれなかった理由。

私がゾンビ化されなかった理由。

それは、私がお金で動くということもあつたけど…肉の芽もゾンビ化もスタンドパワーを弱体化させる性質を持つ。

あなたの知ってる、ポルナレフや花京院典明があんなにも簡単に敗れ、あなた方の『強力な味方』になったのは肉の芽の影響。(まあ、彼ら2人に限って言えば、『自分の生命危機や恐怖を克服した精神力を持っている』点の方が大きいと思うけど。)

私の調教で、『矢』の力を使わずに生まれてくる、新たなタイプのスタンド使いが肉の芽のせいで弱かったら、兵隊として使えないでしょ？

だからD I O様は、私には肉の芽を植えなかったし、ゾンビにすることもなかった。

私が今もこうしてあなたとお話できるのはその御蔭よね、空条承太郎さん。

ねえ、スピードワゴン財団って女をこんな汚いホテルに缶詰めにするのね。

あ、館詰めが正しい漢字だっけ？

こんな狭いホテルじゃ、缶詰めの方が正しい気がするけどね。

D I O様に勝った男って、D I O様よりもケチなのね。

それで…？

コレ以上何が聞きたいっていうの？

|| 「お前が新たな能力を与えたスタンド使いの名前とその能力。

それから、お前が言う調教の詳しいやり方だ。

やり方を聞いておけば、今後似たようなことをする奴が出た時対処できるからな」||

なんだ。それなら簡単よ。

たった二人しか調教出来なかったから。

一人は佐々木 心優。

D I O様に捨てられた男。

そして一人は佐々木 楓(カエデ)。

家族に、そして実の兄である心優に捨てられた男よ。

佐々木 心優という男は知っているのかしら？

そう、知らないのね。

彼の三元々あった能力はサバイバー。

凄く弱いけど、周囲に破壊をもたらすスタンドよ。

周囲の生物を無差別に怒らせ、凶暴かつ好戦的にする能力なの。

被害者はケンカ相手の優れたところや弱点が見えるけど、これはミュの心の優しさがスタンドに影響したものだ。

周囲を怒らせてしまうのは、ミュが優しすぎてイジジとした性格だったためじゃないかしらね。

でもその能力は、すぐに無くなってしまったわ。

カイロのホテルで心優の調教を始めようとした時、妙な格好の黒人が来たの。

まるでD I O様のような『落ち着き』…と言えば良いのかしらね、ああいう独特の雰囲気は…。

あ、あなたはD I O様を倒したんだったわね。

それなら何となく分かるでしょう？

ああいう独特な雰囲気のは…黒人が来たの。

D I O様の使いだと言っていたけど、口ぶりからするともっと親密な…、友人のような関係に聞こえたわね。

まあ、あのD I O様に限って友人なんてことはないだろうけど…。

それで、少しだけ目を離れた隙に、あの黒人が心優に何かしたみたい。

私が心優を女に変えた時には、彼女はスタンドはすっかり空になっていたわ。別に気にしなくていいと思うわよ。

サバイバーは、人間性を壊すスタンドだと思うけど、スタンドパワーは最弱。

というか、戦うこと事態できない。

そういうスタンドなの。

それに…無くなってしまったスタンド能力を知ったところでなんの役にも立たないでしょうしね。

私の考えでは、あの黒人は私の逆のスタンド能力。

つまり、スタンドを奪う能力なんじゃないかしら。

もっとも…。

私の真逆の能力なら…、奪うだけでは済まないでしょうけどね。

心優の話し？

そうね、彼女…ミュは男だった頃にサバイバーの能力があまりにもD I O様の組織にあって使いづらい…というか居てもらっては困る能力だったから…。

だから、彼はD I O様に捨てられたの。

あとは分かるでしょ？

妙な黒人が彼のスタンドを奪った、あるいは消滅させた。

そして、私が心優を女にした。

|| 「…それで？」 ||

私の能力「スリーズアンドナインズ」は、相手を女性にする際に、相手を精神年齢に  
じた背丈、出で立ちに変化させるんだけどね。

ミュはいわゆる、ロリ体型に変わっていったわ。

○学生ぐらいじゃないかしらね。

実年齢は私よりもずっと、上のくせにね。

要するにミュの心はお子ちゃまだったのね。

でもミュの弟はそうじゃなかったわ。

え？

弟の話？

まだしてなかったかしら？

|| 「…」 ||

弟の名前は佐々木楓。

彼はミュと違ってはつきりと意識を保ったまま、私のホテルに来たわね。

例の黒人と一緒に。

顔を真っ青にして絶望していたけど、私はすぐに分かったわ。

この男はミュの弟だって。

だって男だった頃のミュにそっくりだったもの。

顔も、背丈も。

でも生きてきた世界は全く違うように見えたわね。

年齢が若いだけで、兄より激しく過酷な世界を生き抜いてきた、そんな渋さが表情には

あったもの。

案の定、女にしたら『キレイなお姉さん』になったわよ。

お兄ちゃんと違ってしっかりした子だったのね。

佐々木楓のスタンド？

えっと…確か…

『取り立て人 マリリン・マンソン』って言ってた気がするわ。

でもごめんなさい。

それがどんな能力か、私は知らないの。

能力名をカエデが言うから、黙って聞いていただけで、彼女が失ったスタンドなんかにさして興味もなかったから。

でも、彼女がスタンドをいつ無くしたか。

それははっきりと分かるわ。

多分、私の部屋に入る直前よ。

部屋の外で、まるでケツの穴につららを突っ込まれることを覚悟した……そんな異様な気配がしたから。

私がミュのスタンドを奪ったのがあの黒人だと思っているのも、それが理由よ。

そういうわけで私はカエデのスタンドを見たことがないし、そもそも『取り立て人 マリリン・マンソン』という名前が本当かどうかも知らない。

嘘じゃないわ。

どうせ、どこかで嘘発見器でも使ってるんでしょう？

それなら嘘じゃないって分かるわよね？

それとも、嘘を見抜けるスタンド……そんな仲間でもいるのかしらね？

＝「……………」＝

まあいいわ。

兄はロリ体型の女の子に……

弟はグラマーなお姉様に……

私のお陰で生まれ変わったの。

【体験版はここまでです。残りは本編をDLして、お楽しみ下さい。】